

# 前立腺がんの放射線治療、5回で終わるSBRRT（体幹部定位放射線治療）とは？

文 佐々木 裕

text by Hiroshi Sasaki

みなさん、こんにちは。今日は前立腺がんの放射線治療のお話です。前立腺がんの根治治療として放射線治療が行われますが、一言で放射線治療といっても実は、さまざまな種類があるんです。放射線治療は、大きく分けて内部照射と外部照射があります。内部照射とは、体の内部から放射線を照射する治療で、外部照射は体外から放射線を照射するものです。前立腺がんにおける内部照射は、主に組織内照射として小線源治療が行われます。

小線源治療とは、ヨウ素125という放射性同位元素が入った約5mmのチタンのカプセルを前立腺内に体外から埋め込む治療です。外部照射は、体外から放射線を照射する方法で、3次元原体照射（3DCRT）や強度変調放射線治療（IMRT）などがあります。これらの外部照射は、一般的に週5回、約7〜8週間の通院で治療が行われます。入院は不要ですが、回数が多いのがやや難点です。

そんな中で最近、こんな質問をよく受けるようになりました。

「前立腺がん放射線治療で、5回で終

わる放射線治療があると聞きました。どんな治療ですか？」

これは、体幹部定位放射線治療（SBRRT）と呼ばれる治療です。定位放射線治療とは、病巣に対して多方向から放射線を集中させる方法で、前立腺がんにおいては、約5回の照射で終了します。

一般的に放射線治療は、1回の放射線量を増加させた寡分割照射の方が腫瘍制御に効果的なのではないかと考えられています。しかし、1回の線量を上げると副作用が増加するのがこれまでの放射線治療でした。SBRRTは1回の線量が高くなりますが、周囲への影響が小さく副作用もこれまでの放射線と比較しても大きくは変わらないと報告され、日本においては2016年から保険適用となつています。最近さまざまな施設で導入され、限局性前立腺がんの治療選択肢としてさらに注目されていくと思われま

す。限局性前立腺がんの根治治療には、放射線治療以外にも手術療法もあります。さまざまな治療選択肢があり、迷うところです。治療は、放射線治療の回数だけでは決めるべきではないと

思っています。各治療のメリット・デメリット、病気の状態などをよく理解し、それぞれの患者さんに合った治療を選びましょう。迷う場合はセカンドオピニオンを受けたりして、十分納得した上で治療を進めていくことをお勧めします。お気軽にご相談ください。

## Profile

佐々木クリニック泌尿器科 芝大門 院長  
慈恵医大 泌尿器科 非常勤講師

1973年生まれ。1999年、慈恵医大卒。虎の門病院、東海大学、トロント大学を経て慈恵医大で長く前立腺がんの研究・診断・治療を行ってきた。特に腹腔鏡・ロボット支援手術は2000例以上の執刀・指導経験を持つ。また、前立腺MRI/US融合標的生検の先進医療では、保険適用に尽力した。多くのがん患者さんが不安を持つなかで、少しでも安心に変えられるような施設の必要性を感じ、2022年11月、東京都港区に泌尿器科専門の佐々木クリニック泌尿器科芝大門を開院した。メンズヘルス医学会テストステロン治療認定医として男性更年期外来もやっている。



泌尿器科の患者さんが不安のない日々を過ごせるように